ワニっこ通信Ｈ２５第３号
平成２５年１２月６日

～　ティモール島　～

今年もクリスマスの季節がやってきました。クリスマス休暇まで、カウントダウンです。東ティモールは国民の大半がカトリック。クリスマスは、一大イベントです。ラジオや商店街には私たちにも聞き覚えのあるクリスマスソングが流れ、街にはクリスマスに向けた特設マーケットが出来ました。

東ティモール一番のショッピングモール「ティモール・プラザ」には、大きなクリスマスツリーと、飾りが設置されました。停電が頻発していた東ティモールで、これだけのイルミネーションが見られるとは、数年前には考えられなかった光景です。

サンタが空から降ってくる！

受講生たちは、休みを前に大忙し！試験のために勉強をしたり、英語教育が始まったり。日本人の教官とのコミュニケーションを円滑にするために、と始まった英語教育ですが、みんなは不満の様子。それもそのはず、これまで休みだった金曜日の午後に、英語の授業が組まれたからです。初回の参加者は、なんと４人！しかし出席した４人のやる気は本物です。先生が「外国人の女性」ということもやる気の一つになったようです。

先生は英語とポルトガル語しか話せません。授業はすべて英語で進みますが、初級レベルの受講生にはなかなか難しい様子。受講生が顔をしかめていると、先生は理解できるようにとポルトガル語で話します。ポルトガル語は東ティモールの公用語の一つだからです。ところが、受講生にとってはポルトガル語も英語も理解できるレベルに大差ありません。先生が口にする言葉すべてが新しい言葉。英語の授業かポルトガル語の授業か分からなくなりそうですが、この日は「My name is」の自己紹介、「Good morning」等の挨拶、アルファベットの読み方を習いました。苦戦していたのはアルファベット。「J/G/Z」の発音の違いや、「Y」の読み方が難しいようです。「ヤー？」とか「ヨー？」とか色んな答えが出ていました。

女性教師にはちょっと照れます

さて、前回の問題。東ティモールの場所、分かりましたか？正解は、こちら。

東ティモールはティモール島の東にあり、インドネシアと直接国境を接しています。１２月７日は、約４００年にわたるポルトガルによる植民地支配が終わろうとしていた東ティモールに、インドネシア軍が侵攻した日です。東ティモールは２００２年にインドネシアの占領から解放され、今日に至ります。インドネシア占領期には、インドネシア軍による厳しい弾圧により、たくさんの犠牲者が出ました。現在は国境付近も比較的穏やかな状況が続き、国境を越えるのも難しくありません。首都ディリから、西ティモール（インドネシア）最大都市のクパンまで、バスサービスもあります。

インドネシア占領期に悲惨な歴史が生まれたことは事実ですが、インドネシア人と東ティモール人が対立していた、と一言で説明することはできません。占領期に東ティモールに移住し、東ティモール人と結婚したインドネシア人、占領期にインドネシア政府機関で働き、独立後インドネシアに移住した東ティモール人、占領期にインドネシアに避難し、独立後に東ティモールに戻ってきた東ティモール人、反対に、独立後もインドネシアで生きることを選んだ東ティモール人。インドネシアに住む家族（つまり「インドネシア人」）を持つ東ティモール人はたくさんいます。今でこそ「インドネシア」「東ティモール」という二つの国籍に分類されますが、国境がなく、一つの国として自由に移動ができていた時代があったのです。

独立した現在でも、食事、言語、音楽、テレビ番組、生活の様々なところでインドネシアの影響が色濃く見られます。インドネシアと東ティモールの切っても切れない関係は、これからも平和的な形で続くことでしょう。

□△▽○△▽□○□△▽○△▽□○□△▽○△▽□○□△▽□○□△▽□○□△

クイズ！東ティモールで「アス」と言ったら？
1. いぬ　2. やぎ　3. ぶた
ヒント：ディリの路上でも売っています
明日はどんな日になるかなー♪

発行：防衛省国際政策課能力構築支援室